

新聞@ スクール

大事なニュースはどれ？

清瀬どろんこ保育園(清瀬市、山田千恵園長)で1日、読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局の出席授業「しんぶんをつくろう」が行われた。同事務局による保育園での出前授業は初。岩本洋二専門委員(58)が、来年度、小学校に入学する年長園児16人に、ニュース選定のポイントなど新聞作りを分かりやすく話した。

岩本専門委員は10月22日の読売新聞朝刊1面を示しながら、「大事なニュースは記事が大き〜、字もた〜

る。だから大きな記事になっていきます」と話した。この後、「こめ組」の園児らはオリジナル新聞作りに取りかかった。新しく入園した友達「ともやくん」や、空を「動く雲」、銭湯の壁に描かれた「楽しい絵」、公園で見つけた不思議な「赤い実」など、撮影した写真の中から記事の素材を選んだ。

次に、記事を大きくする順番を話した。岩本専門委員は「みんなが驚くこと、びっくりすることがニュース」「いくつかのニュースを比べ、大切だと思うほうを大きくしよう」と助言。その結果、「ともやくん」が一番に。横造紙にニュースの大きさ順に写真を貼り、記事を書き込んで、「こめしんぶん」が完成した。

価値判断 社会性を養う

今回の「新聞作り」のポイントは、園児が自ら取材した「ニュース」を価値判断し、トップ記事から2番手、3番手と順番を付けたことだ。

「このニュースが大切で、みんなに知らせたいか」。園児同士が話し合って決めた。この過程がなく、身の回りの出来事を羅列するだけでは、「新聞作り」は写真の切り貼りという工作の性格が強くなってしまふ。

ニュースの価値を判断することは、園児の社会性を養うきっかけとなる。アクティブ・ラーニング(能動的

学習)として「新聞作り」を行う場合、この過程は必須だろう。

従って、新聞の出来栄えにはこだわらなかつた。未就学児は文字を書く能力に差がある。写真に記事を添えたが、文字が多少間違っていた。いても問題にしなかつた。

ニュースの価値判断の過程には、文字の読み書きの能力に関係なく、どの園児も参加できる。「新聞作り」は、幼稚園・保育園でのアクティブ・ラーニングの有効な手法となるだろう。

(岩本洋二)



身近なニュースの写真を貼り付けたり、記事を書き込んだりしてオリジナル新聞を作る園児たち(1日、清瀬どろんこ保育園で)

った部品(24日、三鷹市で)

部品と同じ刻印が確認でき